

不退転

生徒会長選挙速報

第 40 号
東江中学校
校長 神元 勉

12月9日(水)の6校時に、生徒会長選挙立会演説会及び、投票を行いました。立会演説会では、それぞれの推薦人・候補者が原稿を覚え、堂々と発表してくれました。また、3名の候補者に共通するのが、「東江中をもっと、もっと良くしたい。」という強い気持ち伝わってきたことです。



第39代生徒会執行部は、「最高に輝く東江中へ相互支援・いじめのない学校」をテーマに掲げ、会長の篠田 大輔 君を中心し、生徒会行事や学校行事等で、大活躍してもらいました。中でも、第38代生徒会執行部から引き継いだ「東江中学校人権宣言」に関する一連の取組は、実に見事でした。

中でも、授業前の「黙想」に、「立



合成写真です!!



腰」を加え、進化した取組に他校からの注目を集め、学校を訪れる方々からも絶賛されています。

また、初めてスポレク形式で行った新入生歓迎会、運動会閉会集会での生徒会長の胸上げや校内合唱コンクールでの舞台発表など、多くの感動を演出してくれました。東江中学校の良き校風を築いてきてくれたことに、心から感謝します。ありがとうございました!!

徒会執行部が誕生します。先輩たちが築き上げた校風を受け継ぎ、さらに、充実・発展させるための大事な選挙です。

3名の候補者の皆さん、勇気を振り絞って、立候補してくれて、ありがとうございます。誰が当選しても、今後の東江中生徒会をリードしてくれると信じています。候補者・推薦人の皆さん、今日までの選挙運動、ご苦労様でした。また、選挙の準備や運営に関わってきた選挙管理委員会の皆さんにも重ねて、感謝申し上げます。

誰が当選するか?混戦が予想されますが、生徒の皆さんには、自分が最も生徒会長にふさわしいと思う候補者に、自分の判断で、公正に投票してほしい

と思います。それが、これまで頑張ってきた候補者、推薦人、選挙管理委員会の皆さんの労をねぎらうことになるのです。



- 生徒会長選挙 即日開票の結果
当選 東 憲太郎
- うるま市長杯中学校硬式野球大会
3位 やんばるスラッガーズ
- 国頭地区秋季バスケットボール大会 男子 準優勝
- 第27回名嘉杯ソフトテニス大会
3年女子 個人優勝 金城 佳奈
- 国頭地区新人卓球大会 個人3位 宮城 モモ
- 国頭地区新人バレーボール大会 女子 優勝
- 優秀選手賞 大城菜々子、小川ゆう華、末吉 寿
- 都道府県対抗ジュニアバスケットボール大会
沖縄県選抜最終候補選手 石井 俊一郎
- 第35回全同人権作文コンテスト沖縄県大会
優秀賞 「ハンセン病を考える」 赤嶺凜々子
- 第63回全琉図画・作文・書道コンクール
書道の部 最優秀賞 玉木 日菜(1年)
書道の部 優秀賞 與那嶺琉夏(1年)
書道の部 優良賞 岸本 り子(1年)
山内 正太(2年)
宮城 瑠花(2年)
大城あのん(3年)
赤嶺凜々子(3年)
- 名護警察署 少年の深夜はいかい防止ポスター
優秀賞 宮城 佳歩(3年)

人権作文優秀賞の作品

第35回全国中学生人権作文コンテスト沖縄県大会で、赤嶺凛仄さんの作品が、優秀賞に選ばれました。その作品を紹介します。

「ハンセン病を考える」

東江中学校3年 赤嶺 凛仄

8月8日、パレット久茂地イベント広場で「沖縄県ハンセン病対策キャンペーン」が行われた。このキャンペーンテーマは、「ハンセン病を知ると生き方が変わる?!ハンセン病について正しく理解し、回復者のみなさんに対する偏見や差別をなくしましょう」だった。

私がハンセン病という病気を知ったのは、中2のリーダー研修の時だった。名護市に愛楽園があるというのは知っていたが、そこにハンセン病患者がいることは知らなかった。なので、リーダー研修の講師、比嘉先生のハンセン病についての話を聞いて良かった。比嘉先生の話によると、昔、沖縄ではハンセン病によって家族からも見放され、人の目に付かないところで隠れて暮らしていたそうだ。そして、1枚の写真を見せてくれた。その写真は、「ゴミが散乱しているところに小さな家が建っており、その家の前に布みたいなのを頭から全身にかぶった人が立っていた。その人は、ハンセン病患者だったのだ。私がこの写真を初めて見たとき、この写真の中に人がいると言われて探してみたが、全くわからなかった。どれだけ、ひっそりと暮らしていたかがわかった。

比嘉先生は、他にも話してくださいました。愛楽園ができた後、ハンセン病患者は愛楽園に入れられた。その園内では、赤ちゃんをつくることは許されず、もし赤ちゃんができると、その赤ちゃんは殺され、埋められてしまったと言ったのだ。せつなくできた新しい命が、こつと簡単に奪われていった。私は思った。これは、戦争中と同じではないのか、と。戦時中、壕の中で赤ちゃんが泣いていたら、日本兵が敵に見つかると言って、赤ちゃんを取り上げ、丘から下に向かって投げ、殺したという話を聞いたことがある。この話と変わらないのではないのか。園内では、多くの尊い命が失われていったのだ。

比嘉先生の講話から1年たち、3年生に上がった。私は、健康食育委員会に所属していた。すると、比嘉先生からハンセン病の街頭キャンペーンに是非、東江中の生徒が参加してほしいと頼まれたという話を聞いた。昨年、比嘉先生の話聞いてから、ハンセン病に興味を持っていた私は、もっと、ハンセン病について知ることができるといい機会だと思った。このキャンペーンに参加することが決まって、一度、比嘉先生が参加する私たちに、どのようなことをするのか、お話を来てくださった。私たちは、歌を歌う。そう言われた。参加する人、全員で歌う歌もあった。それは、「ふるさと」だった。なぜ、「ふるさと」を歌うのか。それは、昔、ハンセン病患者の人々は、自分のふるさとに帰りたいと思っていたけれど、帰れなかった。だから、ふるさとに帰ってもいいですよ。そういう意味があるそうだ。私たち東江中の生徒だけで歌う歌の練習も行った。キャンペーンに参加する前に一度、ハンセン病についての勉強会をした。講師が来てくれていた。講

師は、ハンセン病回復者である金城幸子さんと一緒に来てくださった。金城幸子さんは、「ハンセン病だった私は幸せ」という本を出している。それで、とても貴重な話をしてくださいました。自分は、小学校低学年の頃にハンセン病患者となり、血縁のない母に育てられたと言ったのだ。そこでの暮らしは、家の外には出てはいけないが、それ以外は自由にしていいということだったそうだ。けれど、小学生だった幸子さんは、小学校が近くにあったため、声が聞こえてくると、我慢できなくなつて、つい約束を破り小学校の前まで行くと、しばらくすると小学生に見つかり、「帰れ」と石を投げられたと言った。そして、何よりも一番怖かったのは、棒を持った女の先生に追いかけられたこととこの話だ。この話を聞いたとき、私は本当に驚いて、教育者がこのようなことをしていいわけがないと思った。いや、教育者としてよりも、人としてもおかしかった。しかし、幸子さんは、こうおっしゃっていた。「私が本の題名に幸せと入れたのは、ハンセン病だったから、たくさんの人との出会いがあった。みなさんに出会って本当に幸せ」と。

私は、8月8日、街頭キャンペーンに参加した。歌を歌うことで自分もまた、偏見はなくなければ、と改めて思った。このようなキャンペーンに参加することができたのは、本当に良い経験となった。

無知が起す偏見が、これからはない世の中に少しずつでも変わっていったらいいと思う。



一人一人の人権を尊重し、「相互支援・いじめのない学校」を目指しましょう!!